

2023(令和5)年度 自己評価・学校関係者評価報告書

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

東大阪市菱屋西 3-3-7 ☎577-8550

学校教育法第28条及び学校教育法施行規則第39条により、2023(令和5)年度の自己評価及び学校関係者評価を実施し、設置者に報告した内容

1. 本園の教育目標

「未来を生きるための根っこを育てる保育」、即ち、のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、生き生きとした生活の中から真の知性を高め、豊かな情操、思いやりの心、創造性や自主性を育て、健全な人間関係の基礎を培う。

2. 2023(令和5)年度重点的に取り組む目標・計画

子どもが主体となる生き生きとした保育を支える教師力・保育力の向上や環境構成を目指す。

- ・幼児期に大切な教育と教員間での保育観の共通理解、保護者理解の研修を行う。
- ・園内外での保育研修を進める。
- ・子どもが安全に、そして安心して遊ぶことができるよう、遊具・設備の点検整備を含む危機管理に努める。
- ・長期休暇中の預かり保育について、検討を続ける。
- ・キンダーカウンセリング事業を継続する。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類への位置付け変更にともなって、行事等の実施方法を、改めて検討する。
- ・幼稚園活動の広報に努め、入園者の確保を図る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

中長期計画における目標・アクションプラン(実行計画)期末評価

評価記号の説明:

S : 計画通り(以上を含む)実施した、	或いは大きく成果を上げた、	或いは目標数値を達成した	90～100%
A : 計画をほぼ実施した、	或いは一定の良い成果を上げた、	或いは目標数値をほぼ達成した	80～90%未満
B : 計画をある程度実施した、	或いはある程度の成果を上げた、	或いは目標数値をある程度達成した	60～80%未満
C : 計画を下回って実施した	或いは成果はあまりなかった、	或いは目標数値より大きく下回った	10～60%未満
D : 計画を大きく下回って実施した	或いは成果はない		1～10%未満
E : 計画を実施しなかった(評価外)			0%

大分類 (課題)	中分類 (基本施策)	小分類 (具体的施策)	2023 年度	2023 年度期末評価		
			目標数値	単年度 (2023) のアクション プランに対する 達成度 (%)	単年度 (2023) のアクション プランに対する 評価	単年度 (2023) のアクション プランに対する 定性評価 (コメント)
入園者の確保	(1) 教育の質の向上	a. カリキュラムの充実	・保育内容の検証と改善のサイクル定着	80%	S	
	(2) 職員の質の向上	a. 職員間の共通理解	・全職員が共通理解を図るためのミーティング実施 (年3回) ・可視化した保育内容の更新	100%	S	
		b. 研修の充実	・現在の園内研修 (アドバイザーを招いた保育研修) について、実施内容・時期の見直しと改善	90%	A	
	(3) 子育て支援の充実	a. 長期休暇中の預かり保育の実施	・検証と改善	90%	S	
		b. 給食の増加	・週3回の給食の実施	100%	S	
	(4) 商圏エリアの拡大	a. 車送迎の実現	・本格導入の検証と改善	80%	S	車寄せの利用状況は、チェックしており、通常は約20台、雨天時は約30台の利用がある。
	(5) 広報活動	a. ポスター貼り、広告配布、Web 広告、ホームページの充実	・新しい広報媒体を含め、有効な広報媒体の活用・検討	80%	A	
未就園児の確保	(1) 未就園児クラスの充実	a. 保育時間の延長	・検証と改善	70%	B	3学期に弁当日を設定し、13時まで保育しているが、どこまで時期を早められるかを検討中
	(2) 園庭開放の充実	a. 広報、SNS の強化	・改善した広報の実行 ・引き続きアンケートを通して広報の効果の検証 (来場者数: 40人以上)	80%	A	
		b. 内容の充実	・実施時に行ったアンケートや、他園の取り組みを参考に、内容の検討、充実	80%	A	
安心・安全の確保	(1) 環境整備	a. 点検・修理・修繕	・点検シートをもとに日々の点検、必要な修理 ・修繕計画をもとに実行	80%	S	
大学・高校との連携	(1) 様々な学科等との連携	a. 健康栄養学科との連携	・試行状況の検証と実施	100%	S	誕生会のおやつ、給食メニューの提供は続いているが、次年度に向けての検討で、いくつか問題点が出ている。
		b. 化粧ファッション学科との連携	・学科との話し合い、連携内容のまとめ	60%	C	内容についての詳細が詰められていない
		c. 児童教育学科との連携	・児童教育学科との連携強化	70%	S	
		d. SILC (樟蔭国際学習センター) との連携	・試行状況の検証と実施	50%	A	3学期から週に1回だが、昼休みに来てもらっている
		e. 児童教育コース (高校) との連携	・児童教育コースとの関係を維持する	80%	S	
地域との連携	(1) 地域交流の充実	a. 幼稚園行事の地域開放	・地域と話し合い、開放できる行事の内容と広報の方法を決定	0%	E	

4. 総合的な評価結果

- ・教育効果を考えて、コロナ前に戻すところ(誕生会、運動会など)と、簡素化できるところ(入園式、卒園式など)はできるだけ省いて、行事等を再構成した。
- ・キンダーカウンセリング事業は、21年度の導入以来、延べ件数で10件、17件、22件と増えている。
- ・研修やオンライン研修等に積極的に参加し、一人ひとりの資質向上に努めることができた。また、全教員が保育観を共通理解し、個々の園児についての情報(個人懇談などでの)共有することができた。
- ・園庭開放などの機会をとらえて、積極的に広報を行い、入園に結びつけることができた。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
子育て支援の強化	夏季休暇中などの預かり保育について、「幼稚園」として対応できる範囲をさらに検討する。 「こども誰でも通園制度」の導入について検討する。 キンダーカウンセリングを身近なものと感じてもらえるよう保護者向けの案内方法を検討する。
保護者対応	ハグノートの導入(2024年1月から試行)にともなう、お知らせや掲示等での保護者との連携強化について整理する。
危機管理の対応	施設の老朽化にともなう園内外の環境の改善に努める。また、熱中症対策を継続する。

6. 学校評価委員会(学校関係者による評価委員会)の評価

評価委員会：2024(令和6)年3月21日実施

- ・保育理念を貫いていることは素晴らしく、貫いてほしい。
- ・保育理念を変えることなく、附属幼稚園の魅力を打ち出す。
- ・体験型幼稚園ということで、人との関わりや経験を大事にしている。
- ・「根っこを育てる」という言葉が響いている。
- ・先生と保護者の距離が近く、いつでも相談できる。
- ・保護者と園児が過ごす時間は貴重で、園も保護者も大事にしている。
- ・預かり保育は長期休暇中も実施されるので、必要とする保護者がリフレッシュできる。

7. 財務状況

学校法人樟蔭学園として、監事及び公認会計士監査より、適正に運営されていると認められている。